

人生を強く楽しく！

。生きるヒント集。。

高瀬一郎

# 出会いは人生の大きな糸口

人の出会いくらい摩訶不思議なものはない。

その一番が『親との出会い』『子は親を選べない』これを宿命という。子は親なくしてこの世に人間としての生命を授かることは出来ない。

ただ、霊的には子が親を選んできたという説もある。

それだけに、子に対する親の責任は重く、また、子が親に捧げる感謝の念は、本来、不動のはずである。ところが最近の世相は親の責任もなければ、子の親に対する感謝の気持ちもゼロの事件ばかりで悲しい。

その大きな原因は、責任感・義務的行為を遥かに超えた愛に満たされた絆で親子が結ばれていない。

すべて愛ある出会いこそ、大きな人生の糸口である。

# 苦も楽もすべて生き甲斐の糧

人生の幸・不幸は影・日向みたいなものである。

真夏の暑いときには日影が恋しく、寒い冬には太陽の光が欲しいように置かれた環境で感じ方が変わる。

僅か数十年の過去を振り返ってみても、最大のピンチ・最高の苦難と思った時期がなぜか非常に懐かしい。この不思議な感情の逆転現象は何なんだろうか。

多分、その苦労をまともに受け止め、立ち向かい、克服した自己の精神力に対する満足感かもしれない。

このことは自分にとって大きな誇りであり、生きる糧になっている。

苦を楽しみ、楽に酔うことなく、襟を正す謙虚さも併せ持ちたいものがある。

# 充実の日々嫌いが無い不満が無い

愚痴の多い人は不幸である。

相手がいやな気持ちでいることに気付く気配もなく喋り続ける。なかには、日常茶飯事・何事もグチの対象になる得意技の人もある。相手も『またか・・・』と、半分聞いていない。

生返事されている会話は、軽蔑の証である。

反対に、いつも自慢話に終始する人も辟易である。この類の人はお世辞に弱く、心底、話に自信がないから他人の同意を得たいのかも知れない。

太鼓持ちのような、歯の浮く相槌にでも益々調子に乗るから・・・なお、始末が悪い。

嫌いも薬と思えば有難いし、不満も修行の一環と考えれば雑念が払拭できて充実の日々がおくれる。

# 幸せは求めて得ず与えて得る

幸せな人生なんて、ことさら口に出して言うものでもない。  
この世に人として生まれたことがラッキーな事。

幸福感は、人それぞれに価値観が違うように、その時の置かれて  
いる立場、環境によって感じ方も変わる。

また、時間差によっても不幸と思えた事象が幸せの原点に  
なっていることがある。

辛い時代が、後年になって考えてみると、大きなバック  
ボーンとなっている。

ただ言えることは、他人の幸せを妬み、自身の不幸さを嘆  
く人には幸せの青い鳥は舞い込んで来ない。

他人の幸せを心から喜べる優しさと、森羅万象への思いや  
りが行動の基本となれば幸せな一生へと繋がる。

# 道筋のヒント得た人・大恩人

人間のいろんな知恵は、本や学校からは学んでいない。

子供の頃の手痛い体験や、恐い出来事、学友たちとの悪戯、未来発想の漫画の中から自然と身に付いたものが多い。

それらの学習経験が大人たちより語り継がれた諺と共に子供たちの生活規範として定着している。

しかし、最近では、親子の断絶とともに、テレビ・雑誌をはじめとした過激で変な情報ばかりが氾濫し、歳相応でない知識が先行している。

昔の人は、乞食(浮浪者)からも学べとよく諭してくれたが、反面教師的な負の学びの中に心豊かな人生をおくるヒントが沢山ある。挫折のない一直線エリートより紆余曲折・波乱万丈の生活体験こそが、晩年にその価値が生かされる。

# 恥を忍び失敗を世に生かす

よく実学の中に『失敗は成功のもと』という諺があるが、私は、この言い伝えにはどうしても賛同しかねる。

確かに、人は多くの失敗体験の中から社会生活のより良き規範・基準などを学んでいる。そのことに異論はない。

ただ、失敗の痛み、苦しみは、喉もと過ぎれば何とやら・  
・すぐ忘れてしまうことも多い。

その教訓は生かされず、また、同じことを繰り返す悪循環のケースがほとんどである。

人間の性格は変えられても、情緒が起こす行動パターンはそう簡単には変わらない。むしろ、自分の失敗経験は、恥を忍んで他人に披瀝することにより、その失敗の因果関係を明確にし、後進のアドバイス事例として活用したい。

# 艱難辛苦笑みもらし修行全うす

艱難辛苦（かんなんしんく）むつかしい言葉である。

最近、ほとんど一般的に使用されていない。語彙はとても難儀な事や辛いことを意味する。

第2次大戦後3年くらいまでは、とても物資の少ない時期であった。着るものは破れ服を修理し、3度の食事も唐芋ならいい方で、大豆の搾り粕・玉蜀黍の粉、よく生きて来たと思う。

それでも日本人は、じっと、その生活苦に耐えて、永年の高い教養と道徳を基盤に今日の経済大国を築き上げてきた。

この事実は、いかなる苦難にもめげない先人達の強い心と、磨き蓄えた英知によるキャッチアップ効果そのもの。今、もし、あの時代に戻ったらと考えただけで些かゾツとする。苦しみを隠し、常に、笑顔に変える心のゆとりを持ち続けたいと思う。



# 夢・夢・夢・実現の夢初めて来る

夢のない人生は死んだのと同じ、味気ない・面白くない。  
しかしあくまでも、夢は夢、雲か霞か、実態のない意気込みだけでは人様を幸せにすることは出来ない。

それでも、夢は持つべきであり、希望をもって描き続けなければならない。

その夢が実現するまで・・・何十年かかろうとも。

昔の偉人・賢人たちの素晴らしい業績もみな、最初は、夢からスタートし、壮大な構想を練りあげて完成されている。それには、実行への勇気と決断の度胸が欠かせない。

夢が絵となり・形となり、人の目に触れるのは、埋立地の浚渫工事のようなもの、長い期間、誰の目にも止らない。

ある日突然、大地が発現するのと同じで夢は実現する。

# 永遠の真理のみが羅針盤

世の中の真理は一つ、真理を極めずして変化ばかりを追い求める人はスランプに陥る。

しかし、真理のみに拘泥し、変化を忌み嫌う人にもマンネリという落とし穴がある。

ルール無き人生航路は、スランプ（経糸）とマンネリ（緯糸）で織りなす手織り布に似ている。緯（ヨコ）糸は簡単に換えられるが、経（タテ）糸を変えるのは容易でない。

『真理は学ぶものでなく悟るもの』と思う。難行苦行のすえ会得することもあるれば、瞬時に身に付くこともあるから面白い。それにはまず、人並み外れた好奇心がいる。

その好奇心を常に、不易の真理探しにむけるだけで人生航路の『羅針盤』が見えてくる。

# 思い出に心豊かなタイトルを

よき思い出には、晩節を心豊かに過ごす大きな力がある。  
私は、その思い出の一つひとつに独自の題をつけて整理し、  
タイトルを見れば、即、連想できる仕組みにしている。

私の一番古い記憶は4才の時代。『白菊に包まれた』と見出し見ただけで、死装束で寝棺に眠る母の姿が瞬時に現れる。

セピア色のアルバムのような、その光景には、ある種の悲しみを超えた祈りの空間があり、多くの勇気を戴いてきた。

オセロゲームの黒石が一度に白色に変わるような、数々の奇跡、素晴らしい人との出会い、我が人生の始りはここが原点。

多くの回り道が続けた人生航路、ある時は悩み、苦しみ、悶え、反省もしたが、選り抜かれた108項目に及ぶ得難い体験  
・思い出は、今を生きるチャレンジテーマの糧になっている。

# 歳なんて三千年足せば五十歩・百歩

私たちにはみな年齢がある。生まれたときから数えて何歳と、誕生日には、家族でお祝いをする風習もある。

そして、還暦・古希・喜寿と長寿の節目にするお祝い事も、また、楽しい行事。それは、生きた年輪の証に対する喜びでもある。

しかし、本当は、100%の死亡率に向かって日一日と突き進んでいるだけの話。それは、あくまでも肉体的な意味合いであり、宗教的な輪廻転生肯定論からすれば短い期間の出来事に過ぎない。

数千年の歴史的背景のあるインドや、古代中国の天道・霊不滅説に照らして考えれば、今を生きる人間社会は、みな何千何十歳の同世代ということになる。

喜び、憂い、悲しみもほどほどに、私たちには、先の長い旅路が待っている。

# 今に感謝・新しき道・常に拓ける

人間は『生きている』こと自体に役割と意味がある。

世をはかなんで、自殺する人たちが交通事故死より多いらしいが、人々は、何か生き甲斐の本質を見誤っているようだ。

人生・すべては過程であり、結果ではない。経済的に恵まれて贅沢な生活をしようが、貧乏でその日暮らしであっても、生きていることには違いがない。

要は、今の現実をどう受け止めているかが、その人の人生に、陽が当たるか・影をつくるかの分かれ道である。

喜び・楽しみにも、苦しみ・悲しみにも、必ず意味があり、長い年月を経てみて初めて判ることが多い。強く心に刻まれる思い出は、その耐えた時期のものがすべて記憶に留まる。

人生修行に感謝してこそ・・・新しい道が常に拓ける。